

## 【目次】

1. 企画展「日本野球の父、日本社会主義運動の父・安部磯雄」オープン、3月9日！
2. 企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」が閉会、2月28日！
3. 連載「日本労働会館物語」第54回（日本労働会館に結集した人々—安部磯雄その2—）

### 1. 企画展「日本野球の父、日本社会主義運動の父・安部磯雄」オープン、3月9日！



2015年は「日本労働運動の恩人」であり、「日本野球の父」とも「学生野球の父」とも呼ばれ、そして「日本社会主義運動の父」ともされる安部磯雄（1865～1949年）の生誕150年に当たります。友愛労働歴史館はこれを記念し、3月9日から企画展「日本野球の父、日本社会主義運動の父・安部磯雄」（2015.03.09～2015.07.14）をオープンいたしました。

企画展は第一部・安部磯雄の生涯、第二部・ユニテリアン安部磯雄、第三部・日本社会主義運動の父・安部磯雄、第四部・日本野球の父、学生野球の父・安部磯雄、の四部構成です。

安部磯雄は、友愛会発祥の地であるユニテリアン教会・唯一館で、統一基督教弘道会（ユニテリアン教会）会長として鈴木文治の友愛会結成を支えたことで知られています。このため安部磯雄は、「日本労働運動の恩人」と呼ばれています。さらに安部磯雄は、社会民主党（明治34年）や社会民衆党（大正15年）の創立を主導したことにより「日本社会主義運動の父」とも呼ばれています。

今回の「安部磯雄」展では、早稲田大学野球部を創設し、学生野球や日本野球の育ての親として知られる安部磯雄の側面も紹介・解説しています。さらに同志社時代からの盟友で共にユニテリアン教会で活躍した村井知至（英語学者）や岸本能武太（比較宗教学者）を取り上げ、紹介しています。

### 2. 企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」が閉会、2月28日！



友愛労働歴史館の企画展「同盟結成から50年、その今日的意義を探る」は、2月28日に閉会いたしました。今回の「同盟50年」展では、「同盟が同盟体」であったことを強調しています。同盟とは「共同の目的のために同一の行動をとることを約すること」（広辞苑）です。

1989年に現在の連合を結成した旧労働4団体は、総評・同盟・中立労連・新産別で、その正式名称は日本労働組合総評議会、全日本労働総同盟、中立労働組合連絡会議、そして全国産業別労働組合連合です。これらの名称は、それぞれの組織が「議会体」や「連絡会」、あるいは「連合体」であることを示しており、「同盟体」を強調していた同盟と、微妙な性格の違いがあることが窺えます。

また、今回の「同盟」展は、第四部で「同盟ゆかりの人」として阿部静枝（歌人・評論家・社会運動家）、武藤光朗（ヤスパース研究者・社会思想家）、西尾末広（労働運動家・政治家）らを取り上げ、紹介したことが特徴です。

### 3.連載「日本労働会館物語」第54回

＜日本労働会館に結集した人々—安部磯雄その2—＞

「日本社会主義運動の父」として知られる安部磯雄（1865～1949年）は、同時に「日本野球の父」、  
「学生野球の父」とも呼ばれています。今回は安部磯雄と野球の関係について紹介いたします。



安部磯雄は1901（明治34）年、東京専門学校（早稲田大学の前身）の初代野球部長に就任しています。そして日露戦争の最中の1905（明治38）年、早大野球部を引率して米国遠征を行います。これは安部磯雄が大隈重信総長を説得し実現したもので、戦前、早大野球部は7回の渡米を実現しています。

この訪米により早大野球部は多くの野球技術を持ち帰り、帰国後、各地で講習会を開いて広く伝えています。持ち帰った主な野球技術には、投手のワインドアップ、ヒットエンドラン、犠牲バント、スクイズプレー、スパイクシューズの使用、スローカーブ・スローボールの投げ方などがあります。最新の野球技術の導入は、日本野球に革命をもたらし、大きく前進・発展させたのです。

野球に「スポーツマンシップ」、「フェアプレーの精神」、「人格涵養」を求めた安部磯雄の訓えは、早大野球部に次のように伝えられています。①野球を行うものは立派な人間であるように努めねばならない、②学業とスポーツは両立してこそ互いに真価を発揮する、③協同一致の精神、④野球選手は勇気がなければならない、⑤勝敗に余りこだわらすべきではない、⑥審判の判定には絶対服従すべきである、⑦相手チームに敬意を払わねばならない、⑧フェアプレーの精神を忘れてはならない、⑨選手は常に節制を忘れてはならない。

日本野球の発展に貢献した安部磯雄は、没後の1959年に殿堂入り第一号となり、日本野球の発展に貢献した人々を顕彰する野球殿堂博物館（東京ドーム1階）には、彼の肖像レリーフが飾られています。



また、安部磯雄は大日本体育協会の総務理事として、嘉納治五郎を支えたことでも知られています。彼は明治44（1911）年、嘉納治五郎（講道館館長）が結成した大日本体育協会（体協）に参加し、3名の総務理事の一人として会務の推進に協力しています。

安部磯雄は常々、スポーツから得られるものとして①健康、②純真にして健全なる娯楽、③修養を挙げています。また、『青年と理想』の中でレクリエーションに言及し、それは単なる娯楽、休養ではなく、身体と精神の再創造であると述べています。これらは安部の高邁な体育理念、スポーツ哲学として、野球のみならず日本の近代スポーツと教育に大きな影響を与えたのです。安部磯雄が「近代スポーツと教育の先駆者」と呼ばれる所以です。安部磯雄は1926（大正15）年、社会民衆党の結党に伴い早稲田大学を退職し、以後、政治の世界で生きていくことになります。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」



発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F Tel050-3473-5325

Eメール [yuairodokishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairodokishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuairodokishikan.com>

唯一館から121年、友愛会から103年